

霧島山

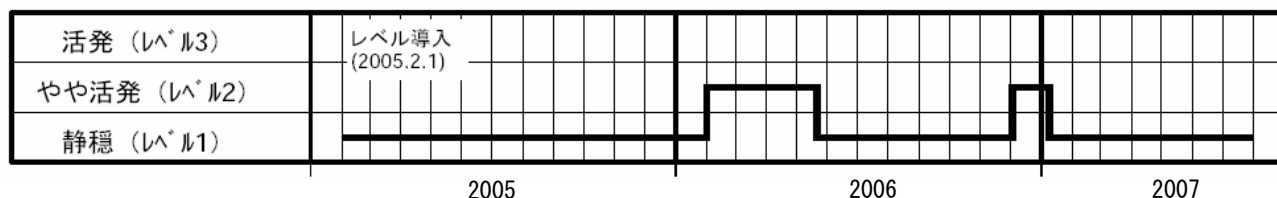
新燃岳

○ 火山活動評価：静穏な状況（レベル１）

火山活動に変化はなく、静穏な状況で経過しました。

2007 年 1 月 9 日以降、レベル 1 が継続しています。

火山活動度レベルの推移（新燃岳）



○ 概況

・地震、微動活動（表1、図2、図3）

火山性地震の発生回数は 47 回(6 月：28 回)で、少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されませんでした。

- 噴煙活動

遠望観測では火口縁を超える噴気は観測されませんでした。

・地殻変動（図4、図5）

GPS による連続観測では、新燃岳を囲む 3 基線で伸びの傾向が見られており、これは新燃岳の山体膨張を示していると考えられます。

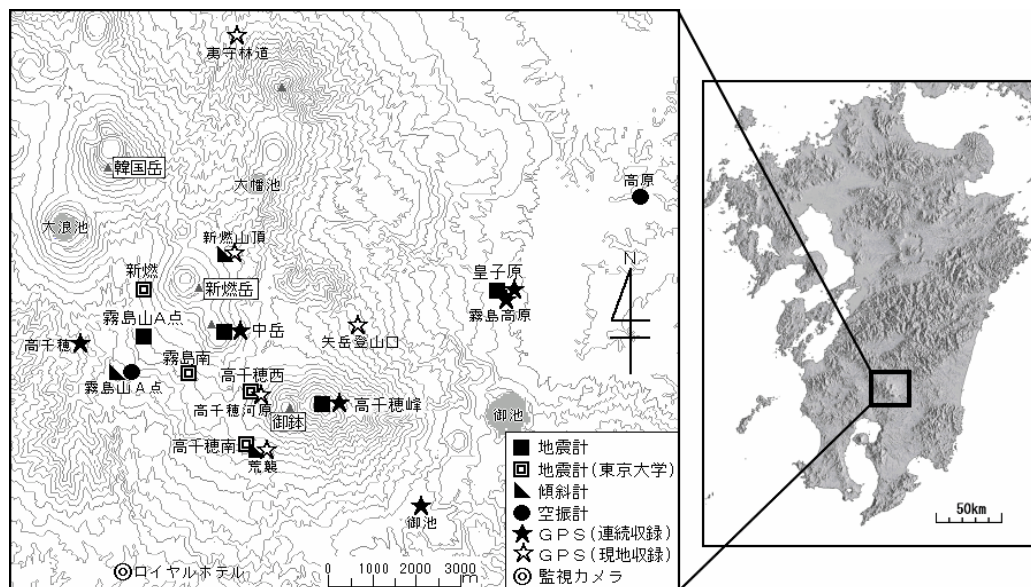


図1 霧島山 観測点配置図

※この資料は気象庁の他、東京大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」、「数値地図 10mメッシュ（火山標高）」を使用しています（承認番号：平17総使、第503号）。

表 1 霧島山(新燃岳) 最近 1 年間の地震・微動回数(2006 年 8 月～2007 年 7 月)

2006～2007 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
地震回数	3	16	6	8	179	52	128	93	30	53	28	47
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

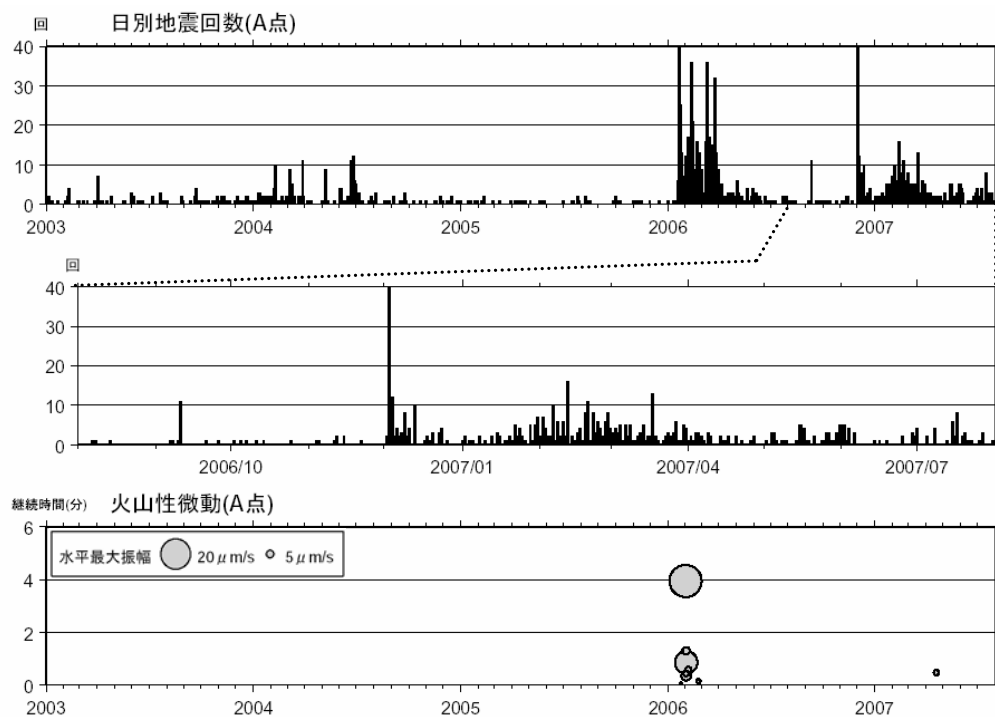


図 2 霧島山(新燃岳) 地震・微動活動経過図(2003 年 1 月～2007 年 7 月)

- ・火山性地震の発生回数は 47 回(6 月：28 回)でした。
- ・火山性微動は観測されませんでした。

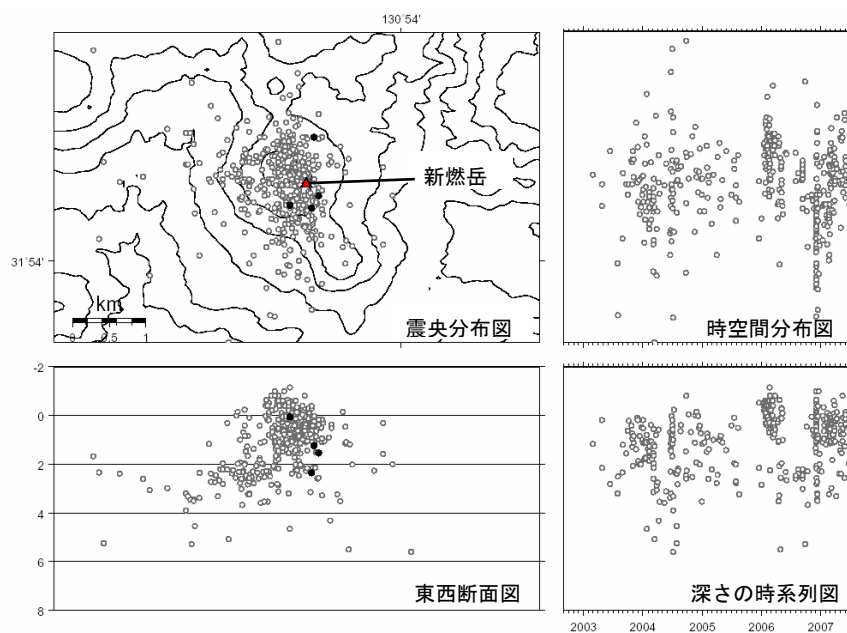


図 3※ 霧島山(新燃岳) 震源分布図(2002 年 9 月～2007 年 7 月)

新燃岳付近で発生した地震の震源は 4 個求まり、新燃岳火口付近の深さ 0～2 km に分布しています。

*今期間の震源は黒丸で表示しています。

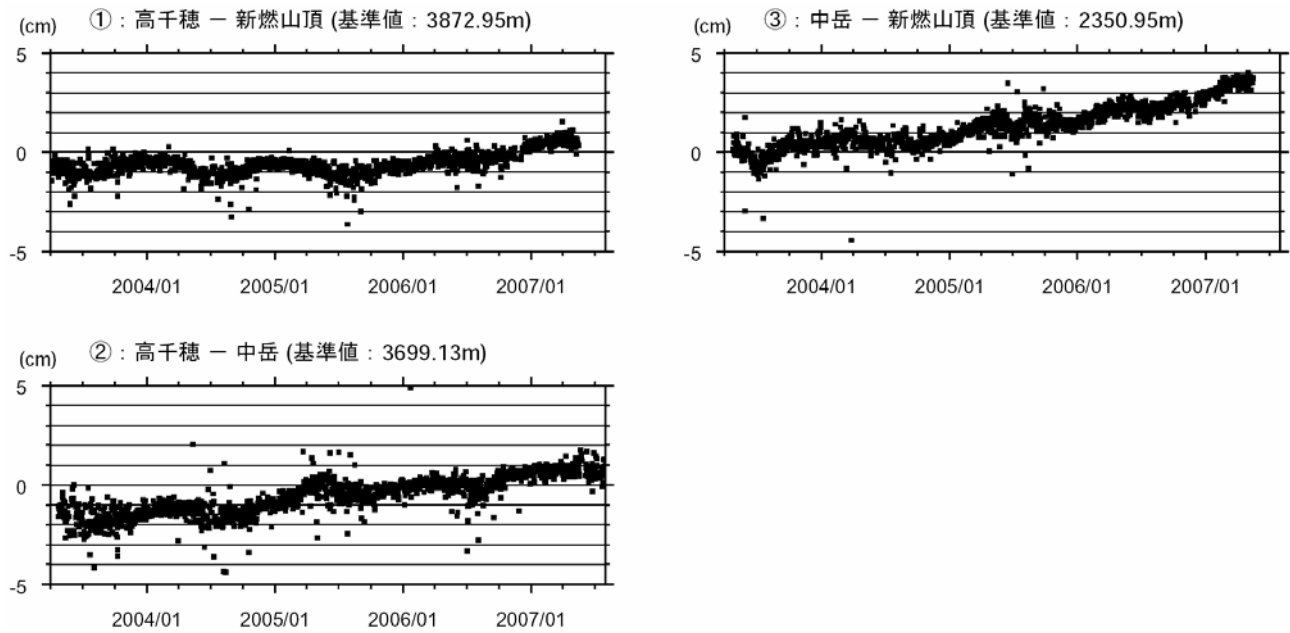


図 4 霧島山(新燃岳) GPS 連続観測による基線長変化 (2003 年 4 月～2007 年 7 月)

②高千穂-中岳および③中岳-新燃山頂では 2004 年終わり頃から伸びの傾向が見られ、①高千穂-新燃山頂でも 2006 年始め頃から伸びの傾向が見られるようになりました。これは新燃岳の山体膨張を示していると考えられます。

* 新燃山頂観測点は現地収録観測点のため今期間のデータはありません。

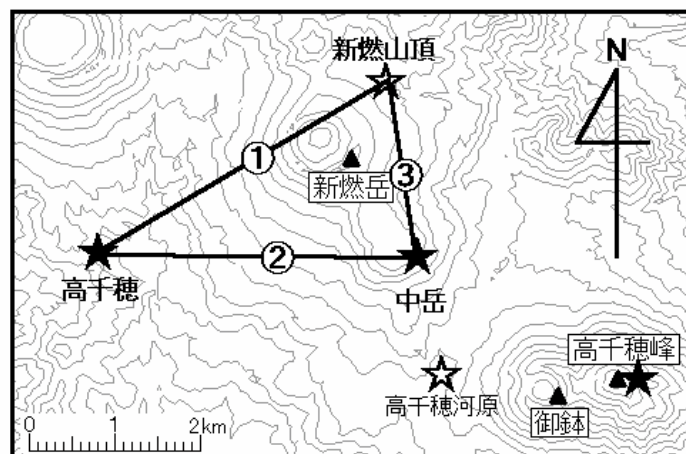


図 5 霧島山(新燃岳) GPS 連続観測点と基線番号

新燃岳を囲んだ 3 観測点の基線による観測を行っています。
この基線は図 4 の①～③に対応しています。

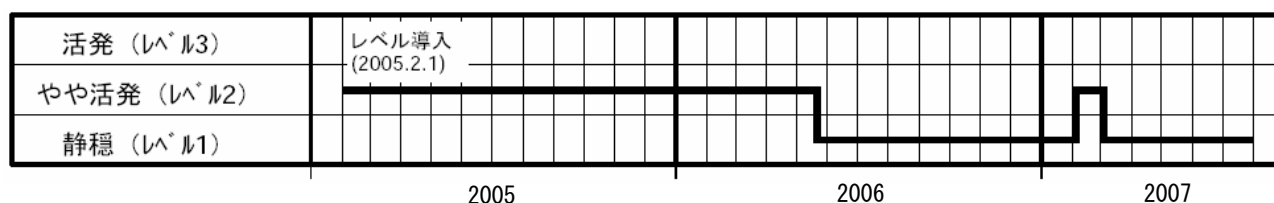
御鉢

○ 火山活動評価：静穏な状況（レベル 1）

6 日～7 日にかけて火山性地震がやや増加しましたが、その後はほとんど発生せず、火山活動は静穏な状況で経過しました。

3 月 5 日以降、レベル 1 が継続しています。

火山活動度レベルの推移（御鉢）



○ 概況

・地震、微動活動（表 2、図 6、図 7）

火山性地震の発生回数は 32 回（6 月：2 回）とやや増加しましたが、そのうち 30 回は 6 日から 7 日にかけて発生しました（6 日：14 回、7 日：16 回）。また、11 日に振幅の小さな火山性微動を 2 回観測しました。

・噴気活動（図 6、図 10、図 11、図 12）

監視カメラでは火口縁を超える噴気は観測されませんでした。

19 日および 23 日に実施した現地観測では、2003 年 12 月に新しく出現した噴気孔（T8、T9）の噴気は弱くなっており、T9 では噴気はみとめられませんでした。

・地殻変動（図 8、図 9）

GPS 連続観測による地殻変動観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

表 2 霧島山（御鉢） 最近 1 年間の地震・微動回数（2006 年 8 月～2007 年 7 月）

2006～2007 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
地震回数	8	7	6	5	9	10	4	6	8	7	2	32
微動回数	0	0	0	0	1	12	3	8	0	0	1	2

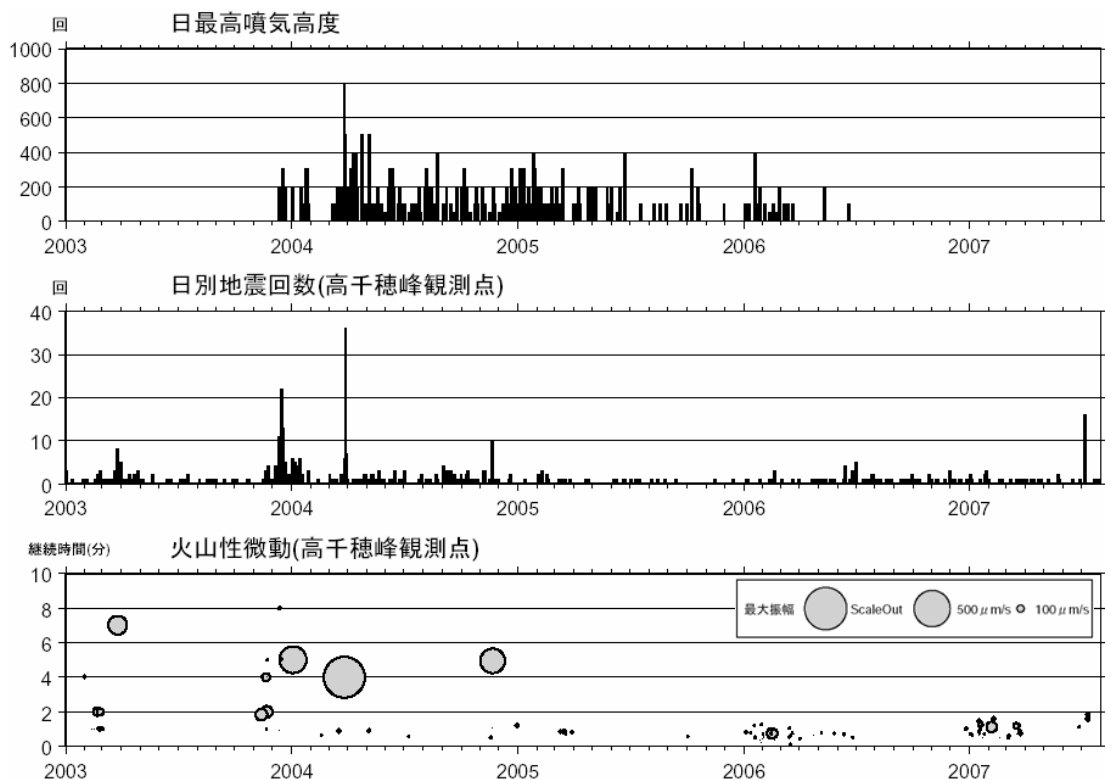


図 6 霧島山(御鉢) 火山活動経過図(2003 年 1 月～2007 年 7 月)

- ・監視カメラでは、火口縁を超える噴気は観測されませんでした。
- ・火山性地震は 6 日から 7 日にかけてやや増加しました(6 日 : 14 回、7 日 16 回)
- ・振幅の小さな火山性微動を 2 回観測しました。

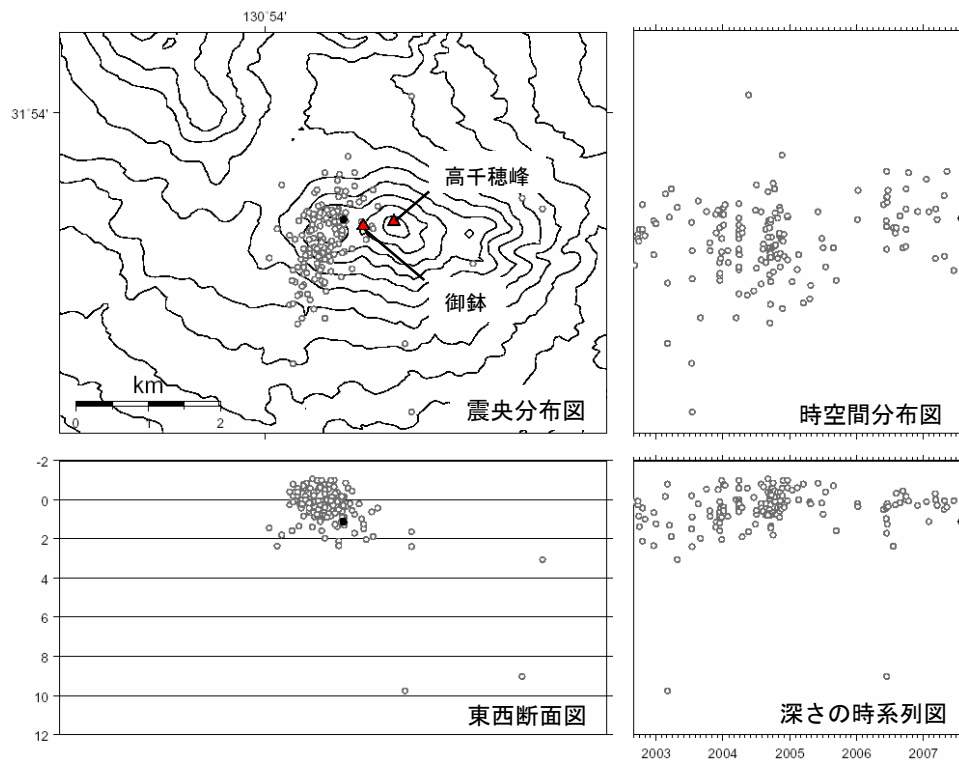


図 7 ※ 霧島山(御鉢) 震源分布図(2002 年 9 月～2007 年 7 月)

御鉢付近で発生した地震の震源は 1 個求まりました。震源は御鉢火口の深さ約 1 km に位置しています。

※今期間の震源は黒丸で表示しています。

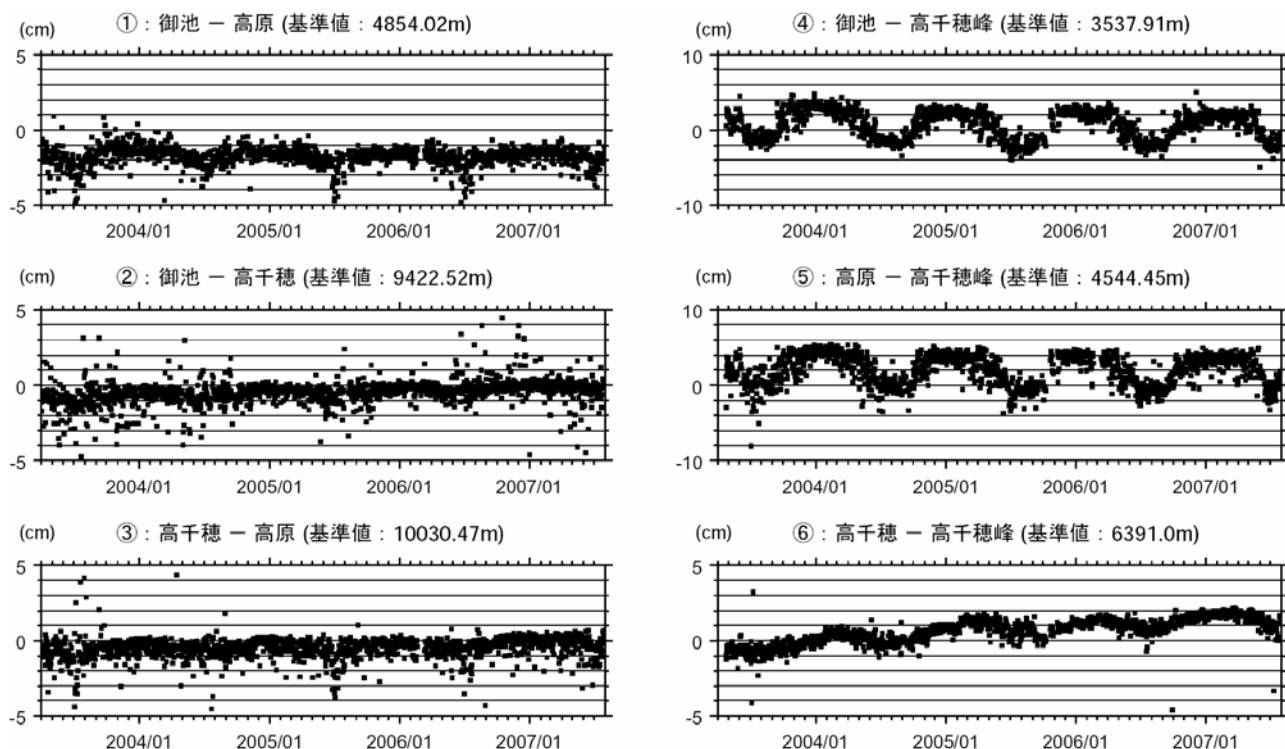


図 8 霧島山(御鉢) GPS 連続観測による基線長変化 (2003 年 4 月～2007 年 7 月)
各基線長には火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

* 概ね 1 年周期の大きな変動は季節変化によるものです。これは観測点間の標高差が大きいほど顕著に現れます。

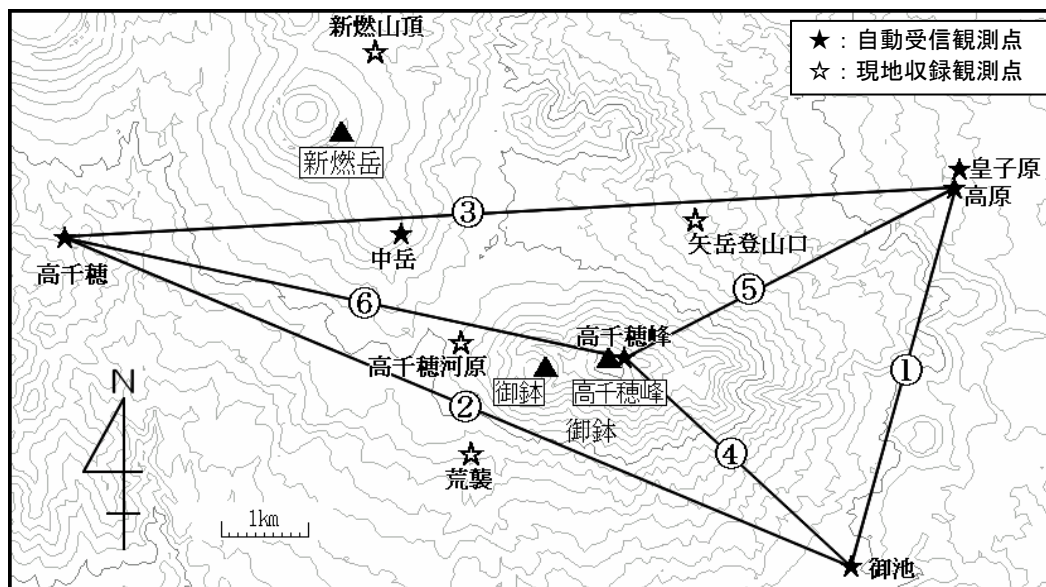


図 9 霧島山(御鉢) GPS 連続観測点と基線番号

御鉢を囲んだ観測点の基線による観測を行っています。この基線は図 8 の①～⑥に対応しています。

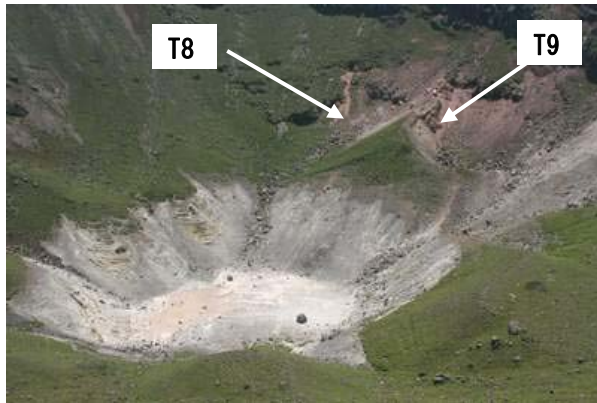


写真 1 2007 年 7 月 23 日撮影

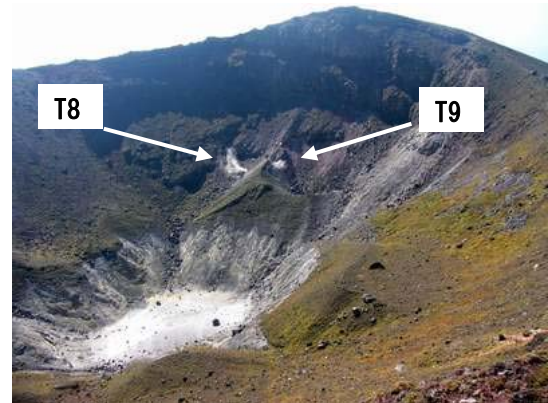


写真 2 2006 年 10 月 16 日撮影

図 10 霧島山(御鉢) 御鉢火口縁から撮影した T8 および T9 噴気孔

- ・ 昨年 10 月は T8、T9 とも噴気がみとめられましたが、今回の観測では T8 の噴気は弱くなっており、また、T9 からは噴気はみとめられませんでした。



写真 3 2007 年 7 月 23 日撮影 (T8)



写真 4 2007 年 7 月 23 日撮影 (T9)
(白丸は噴気孔跡)

図 11 霧島山(御鉢) 噴気孔付近にて撮影した T8 および T9 噴気孔

- ・ T8(写真 3)では弱い噴気が数箇所から上がっていました。
- ・ T9(写真 4)では噴気はみとめられませんでした。

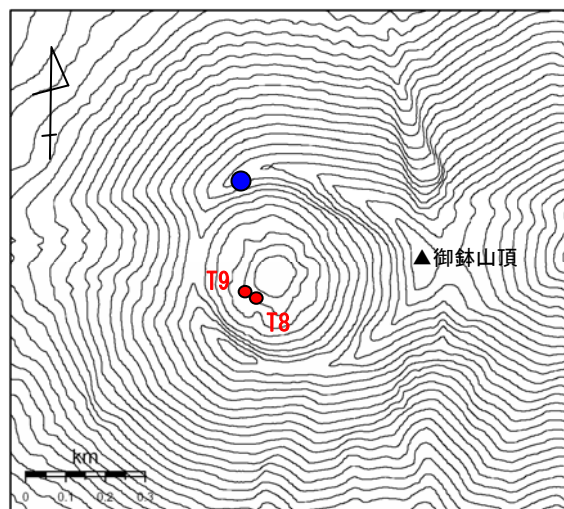


図 12 霧島山(御鉢) 現地観測の観測定点と噴気孔 (T8、T9)

- ・ 青丸は写真 1、2 を撮影した定点。
- ・ 赤丸が T8 と T9 の位置で、写真 3、4 は噴気孔そばにて撮影。